平成18年度

北嶺中学校入学試験問題

国　　語

（注意）

1　問題用紙が配られても、「はじめ」の合図があるまでは、中を開かないでください。

2　問題は全部で**4枚**で、解答用紙は1枚です。「はじめ」の合図があったら、まず、ページ数を確認してからはじめてください。もし、ページがぬけていたり、印刷されていなかったりする場合は、静かに手をあげて先生に伝えてください。

3　答えはすべて解答用紙の指定された解答らんに書いてください。

4　字数が指定されている場合には、特に指示のないかぎり句読点も数えてください。

5　質問があったり、用事ができた場合には、だまって手をあげて先生に伝えてください。ただし、問題の考え方や、言葉の意味・読み方などについての質問には答えられませんので注意してください。

6　「おわり」の合図で鉛筆をおき、先生が解答用紙を集めおわるまで、静かに待っていてください。

一

次の文章は、下村湖人『次郎物語』の一節である。生まれてすぐ乳母に預けられた次郎は六才で実家に戻されたが、母や祖母をはじめ、兄の恭一、弟の俊三ともなじめず、孤立していた。唯一次郎の味方になってくれる父は仕事のため週末にしか家に戻らず、次郎は母の実家である正木の家に遊びに行っては、そのまま何日も過ごすことが多かった。次の場面も、正木の家に数日間滞在していた時のことである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

ある日、次郎は、正木の家の庭石にただ一人腰をおろして、一心に*1築山のほうを見つめていた。

築山のあたりには、鶏が六、七羽、さっきからしきりに土をかいては餌をあさっている。雄が二羽まじっているが、そのうちの一羽は、もうこの家に三、四年も飼われている白色*2レグホンで、次郎の眼にもなじみがある。もう一羽はそれよりずっと若い、やっと一年ぐらいの地鶏である。その汚れのない黄褐色の羽毛が、ふっくりとからだを包んで、いかにも元気らしく見える。

ところで、この地鶏は、ぽつんと一羽、寂しそうに群を離れて立っている。おりおりくびをすっと伸ばして周囲を見まわし、それから（　a　）牝鶏の群れに近づいて行くのであるが、すぐに老レグホンのために追われてしまう。追われる前に、ちょっと*3頸毛を逆立ててはみる。しかしどうも思い切って戦ってみる決心がつかないらしい。

が、そんなことを何度も繰り返しているうちに、地鶏の頸毛の立ちぐあいが、次第に勢いよくなって来た。①次郎はそのたびに息をはずませては、もどかしがった。

彼は、ふと、*4亨太郎の膝の肉をかみ切った時のことを思い起こした。そして、思い切ってやりさえすれば、わけはないのに、と思った。

が、同時に、彼の心には、恭一や俊三とけんかをするときのことが浮かんで来て、腹がたった。

「次郎、お前は兄さんに手向かいをする気かい。」

彼は母や祖母にいつもそう言われるので、つい手を引っこめてしまう。では、俊三になら遠慮なくかかっていけるかというと、そうもいかない。

「次郎、そんな小さな弟を相手に何です。負けておやりなさい。」

と来る。どちらにしても次郎には（あ）ツゴウが悪い。そして、何よりも次郎のしゃくにさわるのは、彼がしかられて手を引っこめた瞬間に、きまって相手が一つか二つなぐりどくをして引きあげることである。祖母は、わざわざそのなぐりどくがすむのを待って、双方を引き分けることにしているらしい。しかもぬけぬけと、

「もういい、もうそれでがまんしておやり。」

などと言う。そんな時の次郎の無念さといったらない。彼は、自分の眼が、熔鉱炉のように熱くなり、涙が氷のように瞼にしみるのを覚えるのである。

（一人では学校にも行けない俊三ではないか。喜太郎の前では、口一つきけない恭一ではないか。僕は何でこの二人に負けてばかりいなければならないのだ。）

（母や祖母の小言が何だ。兄に手向かいをするのが悪いなら、俊三が僕に手向かいするのを、なぜとめない。弟に負けてやるのが本当なら、恭一が僕をなぐるのをなぜしからない。二人の言うことはいつもとんちんかんだ。それに二人は僕が損をしてさえいれば、いつもにこにこしている。僕が僕の好きなことをした時に、二人が嬉しそうな顔をしたことなんか、一度だってありゃしない。そして何かと言えば「氏より育ち」と言う。何のことだかわかりゃしない。おおかた乳母やを悪く言うつもりなんだろうが、乳母やはだれよりも正直だ。僕の好きなことは乳母やも好きだし、乳母やの好きなことは僕も好きだ。学校で一番になることだって、僕は決してきらいではない。ただめんどうくさいだけなんだ。――いったい②二人は僕をどうしようというのだろう。僕が家にいると、二日目には、この子さえいなかったら苦労はないが、と言う。だから僕はなるだけ家にはいないことにしているんだ。すると、今度は、なぜそんなに老人に心配をかけるのかとか、親の心がまだわからないのかとか、まるで、お寺の地獄の画に描いてある青鬼のような顔をして、どなりつける。心配なんかせんでおけばいいじゃないか。いったい祖母や母が僕のために何を心配するというのだ。二人の気持ちはたいてい僕にわかっている。わかっているから、僕はなるべく家にいない（い）クメンをしているのではないか。）

（学校の先生が*5修身で話してきかせることなんかも、半分はうそらしい。第一、親の恩は海よりも深しなんて言うが、そんなことは、父にはあてはまるかもしれんが、母にはちっともあてはまらない。それに先生は、乳母やのようないい人のことを、ちっとも話してくれないのが不思議だ。学校で毎日毎日乳母やの顔を見ているくせに。）

こんなことを考えながら、次郎はいつの間にか、視線を自分の足先に落としていた。

と、築山のほうから、急に激しい羽ばたきの音が聞こえだした。見ると、地鶏が、いつの間にかレグホンに向かって決死の闘いをいどんでいる。燃えるような鶏冠の周囲に、地鶏は黄の、レグホンは白の、頸毛の円を描いて、三、四寸の距離に*6相対峙している。

㋐ひまわりと㋑びやくれんとが、血を含んで陽の中にふるえているようだ。

とうとう蹴合った。つづけざまに二回。しかし、二回とも地鶏の歩が悪かった。次郎は思わず腰をうかして「ちくしょう！」と叫んだ。

地鶏は、しかし、逃げようとはしなかった。やや間をおいて、白と黄の羽根が、三たび地上*7尺余の空に相うった。今度は互角である。

つづいて、四回、五回、六回と、蹴合いは相変わらず互角に進んだ。

次郎は、息をとめ、こぶしを握りしめ、首を前に突き出して、それを見まもった。

闘いは次第に乱れてきた。最初まったく同時であった両者の跳躍が、いつの間にか交互になった。そしてお互いにくちばしで敵の鶏冠をかむことに努力しはじめた。

こうなると、若さが万事を決定する。レグホンの古びきった血液は、強烈な本能の乱いを溶かしこんだ地鶏の血液に比して、はるかに循環が鈍い。彼の打撃はしばしば的をはずれた。地鶏が打撃を二度加える間に、彼は一度しか加えることができなくなった。そして、どうかすると、ひょろひょろと相手の股の下をくぐって、その打撃を避けた。

老雄の自信はついにくだけた。

㋒彼は、黒ずんだ鶏冠に鮮血をにじませ、くちばしを大きくあけたまま、（　b　）築山の奥に逃げこんだ。

若い地鶏は、勝ちに乗じてそのあとを追ったが、やがて、築山の頂に立って大きな羽ばたきをした。そして牝鶏の群を見下ろしながら、（　c　）のど笛

を鳴らした。

次郎はほっとして、立ちあがった。

そして大きく背伸びをしてから、そろそろと築山のかげにまわってみた。老英雄は、夢にも予期しなかった㋐若い反逆者のために、そのながい間の支配権を奪われて、（　d　）垣根に身をよせている。

築山の上では、地鶏がもう一度勝ちどきをあげた。それから、土をかいて、くっくっと牝鶏を呼んだ。

次郎は急に勇壮な気持ちになった。彼の体内には、冷たい血と熱い血とが力強く交流した。つづいて③影のようなほほえみが、彼の顔を横ぎった。

その夕方、彼はだれの迎えも受けないで、急に正木の祖父母にあいさつして、一人で自分の家に帰ったのである。

【語注】＊1築山…山をかたどって庭に土砂を盛り上げた所。　＊2レグホン…ニワトリの一品種。　＊3頸毛…鶏の首の毛。
＊4喜太郎…次郎より二つ年上の、乱暴な子供。　＊5修身…道徳の時間。　＊6相対峙している…にらみあっている。
＊7尺余…三十センチあまりの距離。

問一　（　a　）～（　d　）にあてはまる言葉を次のア～エより選んで番号で答えなさい。

ア、ひっそりと　　イ、そろそろと　　ウ、ふらふらと　　エ、たかだかと

問二　――――（あ）「ツゴウ」・（い）「クメン」について、カタカナを漢字に改めなさい。

問三　――――㋐～㋓のうち、白色レグホン、地鶏を指しているものをそれぞれすべて選び、記号で答えなさい。

問四　次郎は鶏たちの様子を、自身のおかれた人間関係になぞらえて観察していますが、地鶏にあたるのは誰ですか。文中に出てくる言葉を使って答えなさい。

問五　――――①「次郎はそのたびに息をはずませては、もどかしがった」とありますが、それは何に対しての「もどかしさ」ですか。わかりやすく説明しなさい。

問六　――――②「二人」とは誰と誰のことですか。文中に出てくる言葉を使って答えなさい。

問七　――――③「影のようなほほえみ」とありますが、これは次郎のどのような気持ちの表れですか。わかりやすく説明しなさい。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

六年生の夏休みだったと思うけれど、わたしはあることをしました。

わたしは宿題などやったこともないし、予習復習まるでなしの生徒にしては、勉強はできました。「＊1沈思思索的」の時間を知るようになりなんとか一番の成績をとろうという気持ちが起きて、それで、ほとんどが九十八点以上という答案を返してもらうのだけれど、でも一番にはならない。手先のことは（あ）ブキヨウだし、運動神経はにぶいけれども、せいいっぱい努力をして、（い）ニガテの＊2お裁縫も、わりにいい成績をもらうようになっていました。それでもまだ成績が一番にならないということが、わたしには①ふにおちなかった。一番にあこがれたのではなくて、②わたしはちゃんと認められ、愛されている生徒がどうかの証明がほしかったみたいです。

それで、わたしがなにをやったかというと、夏休みに学校の職員室へそっともぐりこんだのです。このごろの学校は、登校時間以外は門をしめてしまって、生徒もふくめて人が入れないようになっていますね。わたしが通っていたころの小学校は、（う）カイホウ的でした。

夏休み中、ラジオ体操があるので、毎朝学校へ行かなくてはならないのです。校門を入って行くと、＊3拡声器で、「ドラネコ先生　ひげぴんぴん、ドラネコ先生　ひげがある……そらにゃーお　そらにゃーお　そらにゃーお」という歌声が流れていました。ドラネコか、クロネコか、もう自信はないけれど。その曲がワンワン校庭中にひびいているような運動場に集まり、ラジオ体操をするのです。

夏休みのある午後、だれもいない学校の職員室へ、窓からどろぼうみたいにわたしはすべりこみました。運動神経はにぶいけれど、わたしはだいたい＊4中肉中背、行動は＊5敏しようと言われたほうで、小さな自転車みたいに③小まわりがきいたから、うまく入れてしまったのです。

先生の大きな引き出しをあけたら、クラス全員の成績一覧表がありました。十点満点の採点法で、成績が書かれていて、総合点数が書かれています。見ると、わたしとまったく同じ総合点数の子がいました。ほんとうだったら、二番をふたりかつくらなければならないわけでしょう？　同じ成績なんだから……。だけどわたしは、同じ成績の級友の次の席次になっていました。

同じ成績をとった生徒に＊6甲乙をつける。これは先生の④心証、気持ちですね。わたしはほんとうは先生に愛されていることのあかしを見たかったのだと思います。だからしょんぼりして、また窓から外へ出ました。⑤カンカン照りの目くるめくような太陽、まつ青な大空でした。

先生は、わたしが「えこひいきする」と言うと、絶対にそんなことはないと言って、顔をまっ赤にしておこってらしたけれども、ああ、やっぱりね、とわたしは思ったのです。でも、証拠がありますとは言えないでしょう。どろぼうみたいに入っていって、見てはならない秘密の書類を見ちゃったわけですから。だからそのことは言わないけれど、努力をして同じ成績をとっても、わたしは順番をあとにまわされる子ども。そういうふうにあの先生の胸の中で扱われている生徒だということを、自分の目でしっかり見とどけてしまったという感じ。

それでわたしはよけいねじくれました。ねじくれながらさみしくて、本当はちゃんと先生に受けとめてもらいたいという気持ちでした。通信簿で「＊7卑下するな」とか「言行一致することを望む」などと言われるように、つまり⑥わたしの芝居がみだれはじめたの

は、この夏休みに見た成績表が大きく影響したと思います。

自我の強い、大人にはだまされない自分だけの世界を持っている子ども。＊8ユニークで、そのくせ手荒くさわった人にはチクリとお返しをするような、トゲトゲのいっぱいある子どもとして育ってきていながら、わたしは本当に⑦簡単なきっかけで、それを全部失ってしまいました。残念なことだと思います。そして、⑧その日がわたしの子どもの日の終わりになるのです。

（澤地久枝『おとなになる旅』より）

【語注】
＊1沈思思索…深く考えること
＊2裁縫……布を切って衣服などにぬい上げること
＊3拡声器……スピーカーのこと
＊4中肉中背…ほどよい肉づきでほどよい背たけ
＊5敏しょう…動作などがすばやいこと
＊6甲乙……優れていることとおとっていることの差別
＊7卑下する……自分を人よりもいやしいとかおとっているとか思っている様子をすること
＊8ユニーク……その人だけが持っているもの

問一 ――――（あ）「ブキヨウ」・（い）「ニガテ」・（う）「カイホウ」について、カタカナを漢字に改めなさい。

問二 ――――①「ふにおちなかった」③「小まわりがきいた」④「心証」の意味としてふさわしいものをそれぞれ後にあげたア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

①「ふにおちなかった」
ア、ゆるされなかった
イ、さけられなかった
ウ、納得できなかった
エ、深く考えなかった

③「小まわりがきいた」
ア、積極的に行動できた
イ、すばやく動きまわれた
ウ、まっすぐに進めた
エ、きれいに回転できた

④「心証」
ア、心に受ける印象
イ、心に信じる考え
ウ、心に残るできごと
エ、心に受けた感動

問三 ――――②「わたしはちゃんと認められ、愛されている生徒かどうかの証明がほしかったみたいです」とほぼ同じ内容をあらわしている四十字以内の一文をぬき出し、始めと終わりの五字で答えなさい（句読点も一字に数える）。

問四 ――――⑤「カンカン照りの目くるめくような太陽、まっ青な大空でした」の表現のはたらきや効果を述べたものとして、もっともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア、行動や心と対照的な情景を描くことにより、後ろめたい気持ちやしずんだ心が強く浮かび上がってくる。
イ、明るい太陽やすみきった青空のように、自分のいだいていた疑問が一気に晴れていくことを表している。
ウ、夏の空や太陽の明るさの中で、自分がほっとして救われたような気持ちになっていくことを表している。
エ、暗くしずんだ思いを捨てて、少しでも早くすっきりした気持ちになりたいという願望がこめられている。

問五 ――――⑥「わたしの芝居」とあるが、「わたし」はどういう子どもであったことをいっていますか、わかりやすく説明しなさい。

問六 ――――⑦「簡単なきっかけ」とは具体的にどのようなことですか、三十字以内で答えなさい。

問七 ――――⑧「その日がわたしの子どもの日の終わりになるのです」にはどのような気持ちがこめられていますか。その説明としてもっともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア、夏休みに自分の成績表を見た経験によって、大きく成長したことをほこらしく思う気持ち。
イ、自分が子どものころ、他の子どもと異なる心を持っていたことをほほえましく思う気持ち。
ウ、職員室にしのびこんだ子どものころをふり返って、その行動をくやみ深く反省する気持ち。
エ、自分が子どものころ持っていた個性的でユニークな心が失われたことをいとおしむ気持ち。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

同時多発テロ事件のあとアメリカによるアフガン空爆が始まりました。

そのとき、「アメリカの立場」から一方的にものを見ないで、（あ）「爆撃され、家を焼かれ、傷つき、殺されているアフガンのふつうの人たち」の気持になって、この戦争を考えたら、ずいぶん違った風景が見えてくるだろう」という意見が多くのメディアで紹介されました。同じことを新聞の社説でも投書でも知識人や政治家のインタビューでも多くの人が口にしました。

戦争や内乱や権力闘争について、コメントするときに、一方的にものを見てはいけない。[A]、アフガンの戦争について「アメリカ人から見える景色」と「アフガン人から見える景色」はまったく別のものだからだ、ということは私たちにとって、いまや「常識」です。

[B]、この常識は実はたいへん「①若い常識」なのです。

②このような考え方をする人はもちろん一九世紀にもいましたし、一七世紀のヨーロッパにもいました。[B]、そういうふうに考える人は驚くほど少数でした。そのような考え方をする人、[C]そのような考え方を受け容れられる人が国民の半数以上に達して、「常識」になったのは、ほんのこの二十年のことです。遡れば、遠く古代ギリシャにもいました。

[D]、いまから三十年ほど前、アメリカはベトナム戦争でみじめな敗北を経験しましたが、その当時、「アメリカ人から見たベトナムの風景」と[　　]は違うというようなことは、ほとんどアメリカ国民の脳裏に浮かびませんでした。アメリカにとって、ベトナムは「*1ドミノ理論」という数式的な世界戦略の中での「ドミノ」のコマの一つに過ぎず、「生身のベトナム人はアメリカのアジア戦略をどう評価しているのだろうか」というようなことを真剣に配慮している政治家はほとんど存在しませんでした。

そのさらに三十年前、当時の大日本帝国臣民にとって、「日本人から見た満州国」と「中国人から見た満州国」が別様に見えるというようなことは少しも「常識」ではありませんでした。(い)「中華民国の人々から見た満州国の評価」を尊重しつつわが国のアジア外交は展開され立案すべきだというようなことを説いた日本人はほとんどいませんでした。

A国人とB国人は同じ一つの政治的事件について違う評価をするということは「事実」としてはもちろん誰にだって理解できます。しかし、(う) ABそれぞれの国民のものの見方はとりあえず「等権利的」であり、いずれかが正しいということはにわかには判定しがたいという意見を公言した人は、世界中どこでも、近年まで、ほんとうに少数だったのです。……中略……

それがどうでしょう。

「(え) ジョージ・ブッシュの反テロ戦略にも一理あるが、アフガンの市民たちの苦しみを思いやることも必要ではないか」というのは、街頭でいきなりTVにインタビューされた場合にとりあえず無難な「模範解答」です。人々はまるで判で押したように同じことを言います。「とりあえず無難」とみんなが思っている意見のことを「常識」というのです。そして、このような意見が「常識」になったのは、ほんとうにごく最近のことなのです。

世界の見え方は、視点が違えば違う。だから、ある視点にとどまったままで「(お) 私には、他の人よりも正しく世界が見えている」と主張することは論理的には基礎づけられない。私たちはいまではそう考えるようになっています。このような考え方の批評的な有効性を私たちに教えてくれたのは構造主義であり、それが「常識」に登録されたのは四十年ほど前、一九六〇年代のことです。

構造主義というのは、ひとことで言ってしまえば、次のような考え方のことです。

私たちはつねにある時代、ある地域、ある社会集団に属しており、その条件が私たちのものの見方、感じ方、考え方を基本的なところで決定している、だから、私たちは自分が思っているほど、自由に、あるいは主体的にものを見ているわけではない。むしろ私たちは、ほとんどの場合、自分の属する社会集団が受け容れたものだけを選択的に「見せられ」「感じさせられ」「考えさせられている」。そして自分の属する社会集団が無意識的に排除してしまったものは、そもそも私たちの視界に入ることがなく、それゆえ、私たちの感受性に触れることも、私たちの思索の主題となることもない。

③私たちは自分では判断や行動の「自律的な主体」であると信じているけれども、実は、その自由や自律性はかなり限定的なものである、という事実を徹底的に掘り下げたことが構造主義という方法の功績なのです。

(内田樹『寝ながら学べる構造主義』より)

【語注】 *1ドミノ理論…Aが起きればBが起き、BがCが起き、というように考えていって、Zが起きないようにするために、Aを起こさないようにしなければいけないと考える考え方

問一 [A]〜[D]にあてはまる言葉としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号のところには、同じ言葉が入ります。

ア、あるいは　イ、しかし　ウ、たとえば　エ、では　オ、なぜなら

問二 ——①「若い」とありますが、この場合の「若い」とは、どういう意味だと考えられますか。説明しなさい。

問三 ——②「このような考え方」とありますが、これはどのような考え方のことですか。本文全体の内容から考えて答えなさい。

問四 [　　]にはどんな言葉を入れるのが適切ですか。二十字以内で考えて答えなさい。

問五 本文中に示された五つの〜〜〜部の考え方の中で、一つだけ違う種類のものがありますが、それはどれですか。記号で答えなさい。

(あ) 「爆撃され、家を焼かれ、傷つき、殺されているアフガンのふつうの人たち」の気持になって、この戦争を考えたら、ずいぶん違った風景が見えてくるだろう

(い) 「中華民国の人々から見た満州国の評価」を尊重しつつわが国のアジア外交は展開され立案すべきだ

(う) ABそれぞれの国民のものの見方はとりあえず「等権利的」であり、いずれかが正しいということはにわかには判定しがたい

(え) ジョージ・ブッシュの反テロ戦略にも一理あるが、アフガンの市民たちの苦しみを思いやることも必要ではないか

(お) 私には、他の人よりも正しく世界が見えている

問六 ——③「私たちは自分では判断や行動の『自律的な主体』であると信じているけれども、実は、その自由や自律性はかなり限定的なものである」とありますが、そうなってしまうのはどうしてですか。本文中の語句を用いて説明しなさい。

問七 次のうち、本文を正しく理解していないと思われるのは、誰ですか。記号で答えなさい。

a 君 「常識」って、時代や場所によって変わるんだね。

b 君 っていうa君の考え方が、今の時代の日本人の「常識」なんだよ。

c 君 ということは、いつか、「これがいつの世もどこの国でも絶対正しい常識だ」っていう考え方が現れて、それがまた否定されることもあるかも知れないってことか。なんだか頭がおかしくなりそうだよ。

d 君 そうさ。だから僕らは、時代や国がどうであれ、自分の考えに自信をもって生きていくしか仕方ないんだよ。

e 君 でも、自分たちが常識的に正しいと考えていることは、正しいかどうか疑ってみるというのが大事なのかもしれないね。